

茅野市尖石縄文考古館「蛇体装飾のある土器」

茅野市尖石縄文考古館は、今年の干支「巳」にちなみロビー展「蛇体装飾のある土器」を開いている。

へびのような装飾が付いた土器「蛇体把手付深鉢形土器」をはじめ、へびを表現したと思わせる立体装飾や文様がある土器、土器の破片など約30点を展示している。

同館によると、蛇体装飾のある土器は八ヶ岳山麓から関東地方にかけての縄文時代中期の遺跡に色濃く分布し、市内からも多く出土している。このうち同市豊平の尖石遺跡から1933年に出土した縄文時代中期（約5000年前）の蛇体

へび思わせる土器ずらり



へびのような立体装飾や文様がある土器を集めたロビー展

把手付深鉢形土器は、同遺跡を象徴する文化財の一つで、県宝に指定されている。

ロビー展では土器の表面のうねるような文様、とぐろを巻いたような立体装飾など、へびを思わせる特徴がある土器がずらり。とぐろを巻く尾が表現された蛇体装飾のある深鉢形土器、立体的な蛇体装飾の破片などを紹介している。

来館者は「言われてみるとへびにしか見えない」と興味深く見入っている。同館では「土器のへびっぽいと思える部分を探しながら見てもらえたら」としている。

3月2日まで。通常観覧料が必要。問い合わせは同館（電話0266・76・2270）へ。（宮沢知史）